



女性特有の臓器である卵巣に発生する腫瘍の総称である卵巣腫瘍。特に初期段階では症状が現れにくく、異変を感じたときには進行していることもある病気の一つだ。症状や治療法について専門医に聞いた。

## 卵巣腫瘍

卵巣腫瘍は卵巣の「できもの」で、種類はさまざまですが、良性、境界悪性、悪性腫瘍(がん)に分類されます。良性腫瘍は命の危険はありませんが、放置すると大きくなり腹部に張りや痛みが生じます。腫瘍が根元でねじれる「茎捻転」を起こすと、

りして命に関わります。悪性(がん)は子宮がんなど他の婦人科がん比べて予後が悪いです。進行した状態で見つかることが多く、大きな手術や抗がん剤治療が必要になる傾向があります。

それ以外は手術が必要で、良性は主に腹腔鏡手術で腫瘍部分や卵巣ごと摘出。境界悪性や悪性の場合、開腹手術で子宮と両側卵巣を摘出する必要があり、妊娠できなくなります。しかし早期の悪性、境界悪性腫瘍だと、片側の卵巣を残すといっ

ます。卵巣腫瘍は早期発見が重要です。自覚症状がなくても定期的に婦人科検診を受け、気になる症状が続く場合はためらわずに受診すること、命と将来の妊娠の可能性を守る最善策です。

## 自覚症状乏しく、定期検診が重要

激痛のため緊急手術が必要になります。子宮内膜症による「チョコレート嚢腫」はひどい生理痛や不妊の原因になり、がん化する恐れもあります。

の張りや痛み、下半身のむくみなどを感じる場合があります。診断は主に内診や超音波検査で実施し、必要に応じてMRIや腫瘍マーカーなどを追加します。

た妊娠が可能な「妊娠性温存手術」ができる場合もあります。最終的な診断は摘出した腫瘍の顕微鏡検査により決まります。

境界悪性は良性と悪性の中間的な性質で、まれに再発したり腹部にがんが散らばった

良性で小さく症状がない場合は経過観察、チョコレート嚢腫は薬の治療も可能です。

卵巣がんは、親族に卵巣がんや乳がんの病歴がある人や子宮内膜症がある人、妊娠歴が少ない人が高リスクとされ

します。

◇第1、3、4日曜に掲載

(兵庫県産科婦人科学会、吉岡信也・明石市、大久保病院)